

《令和7年度 荒川さつき会館にある平和に関する本》

しょうがっこうていがくねん ちゅうがくねんむ
小学校低学年～中学年向け

📖 やくそく ぼくらはぜったい戦争しない

作:那須 正幹 絵:武田 美穂

トオルが中学生になったところから、
ばあちゃんはトオルを「にいちゃん」
とよぶようになった。
死んだ人に間違われるのは嫌だけど
…ばあちゃんのにいちゃんはトオル
と同じくらいの年で原爆で亡くなっ
た。父さんも母さんも亡くなって、ば
あちゃんは一人で生きてきた。



ぼくらはぜったい戦争しない。約束する。生涯戦争の
悲惨を伝え続けた、那須正幹が遺した最後の作品。

〔出版社：ポプラ社〕

📖 みどりは 緑の葉っぱのパン

作:最上 一平 絵:北見 葉湖



女の子のお父さんはおいしいパン
を焼くのが生きがいのパン職人で
した。
ようやく自分のお店を持てたのに、
爆撃にあい、お店が…。

女の子はお父さんと約束します。
世界一おいしいパンを焼いてもらう、と。
現在も世界で戦争が続く中、家族が離れ離れになら
なくてはならない現実があることを考えさせられる
一冊。

お父さんの家族を思う気持ちに、涙が止まりません。

〔出版社：新日本出版社〕

📖 さくらがさいた

作:あまんきみこ 絵:鎌田 暢子



クミがおばあちゃんとお
風呂屋さんに行った帰り
道、土手のさくらは満開で
した。

その時、大きな黒い犬がクミに飛びついてきま
した。

おばあちゃんは昔飼っていた犬「クロ」にそっ
くりだと、桜の木の下で話し始めます。
大切な家族だった「クロ」との別れ、戦争がな
ければずっと一緒にいられたかもしれない…。
やさしいタッチの絵でありながら、戦争の悲惨
さが伝わってきます。

〔出版社：文研出版〕

しょうがっこうちゅうがくねん こうがくねんお
小学校中学年～高学年向け

📖 ある日、戦争がはじまった
12歳のウクライナ人少女イエバの日記



著者:イエバ・スカリエツカ 訳:神原 里枝

2022年2月、12歳の誕生日を迎えた
少女イエバ。しかしわずか10日後、ロシア
のウクライナ侵攻が始まった。
午前5時50分、突然の爆発音で目が覚
める。

爆撃の恐怖に怯えながらの避難生活、離れ離れになっ
てしまった友達とのやりとりなど、イエバの実体験が書か
れた日記は、戦下での暮らしがどんなものかをリアルに
教えてくれる。

〔出版社：小学館クリエイティブ〕

📖 わたしが正義について語るなら

著者:やなせたかし



だれもが知っている、国民的
ヒーロー「アンパンマン」の
作者、やなせたかし。
若い頃、兵隊として戦争に行
った経験から正義について
考えるようになります。

「正義とは何か、正義の味方って本当にかっこ
いい?正義はある日突然逆転する。」
など、やなせ流の哲学を交えながら、正義につ
いて語られている。

幼少期の頃のことや「アンパンマンマーチ」の
歌詞の意味などにも触れており、興味深い一
冊。

〔出版社：ポプラ社〕

📖 戦火のなかの子どもたち

著者:いわさき ちひろ



この絵本はベトナム戦争
末期のころ、描き始められ
ました。
ベトナムの子ども達の頭上
に毎日爆弾が降ってくる
現実、心を痛めた著者。

ベトナム戦争でく亡くなった子どもたち、生
き延びた子たちに思いを馳せ、平和を訴え
つづけた著者、いわさきちひろ最後の絵本。
戦争で犠牲になった子どもたちの表情に胸
が締め付けられる。

〔出版社：岩崎書店〕

※これらの本は、荒川区教育委員会事務局 教育センターの協力により選定しました。